

公益財団法人日下部・グリフィス学術・文化交流基金
令和4年度 第2回理事会議事録

1. 開催日時 令和4年6月21日(火) 13時30分から14時30分
2. 開催場所 WEB 会議
3. 出席者 理事総数 12名
出席理事 9名
理事長 細谷龍平
理事 開発 毅, 鞍谷文保, 黒原繁夫, 西東一彦, 高屋雅樹, 花島 信,
松下晋也, 山田 聡
監事総数 2名
出席監事 2名
監事 諏訪光宏, 堂 裕司
陪席者 1名
一葉正樹 (福井県総務部大学私学課主事)

4. 議 題

(1) 審議事項

- 第1号議案 理事長の選定について
第2号議案 「幸福の足袋」事業と基金の今後について
その他

5. 定足数の確認

理事総数12名中9名の出席があり、定足数を満たしていることを確認した。

6. 議事概要

(1) 審議事項

第1号議案 理事長の選定について

仮議長(花島理事)から、定款第27条第2項により12名の理事の中から理事長を選定したい旨発言があり、黒原理事より細谷理事を推薦した。細谷理事から、次の二つの理由により来年度以降の活動には制約を受けるが、その前提で信任されるのであれば続投する用意はあるとした。まず、福井大学の常勤教員としての身分が本年度で終了することにより、関係の授業で学生の協力を得ることはできなくなり、これまでと同様に直営事業を実施することは難しくなる。また来年4月からは福井を離れるので、必要に応じ出張はするが基本的にリモートワークとなる。以上を前提として細谷龍平氏の理事長重任を全員異議なく承認した。

第2号議案 「幸福の足袋」事業と基金の今後について

理事長から新理事も迎えての本年初の理事会であるので改めて基金の現状と今後についての考えを共有したいとして概略以下のとおり述べた。

当基金がグリフィスの来日・来福150周年を記念して令和2、3年度に実施した「福井で見るサンの夢事業」と、他団体の関連事業を合わせた成果であると思われるが、4月に学生が行った福井駅での街頭アンケート調査によれば、3年前にグリフィスの知名度は約20人に1人であったのが、4人に1人以上、5倍強に上がっていた。これをさらに上昇させることを目指して、同事業の延長である今年度の直営事業「幸福の足袋」では、同名の本の出版を軸に、それと連動する企画(ス

タンプラリー、グリフィス記念館の装飾、県内の外国人留学生とのオンラインクリスマス交流会)を学生の参加も得て展開する。これはグリフィスが福井で開いたクリスマスパーティーが公には日本初であったことを引き続きプロモートするものであるが、主なターゲット層は去年までの子供から大人に移し、新幹線開業も見据えた福井の観光誘客資源の一つとして関連団体と連携してさらに磨いていく。本は県内各書店での販売に加え、福井青年会議所が本年実施中のオンラインクラウドファンディング事業「ふくいのでいいコトいいモノプロジェクト」に出店して本をリターンとする寄付を募る予定である。上記のとおり来年度以降の直営事業実施には制約が出てくるので、今年度の事業は「種蒔き」と位置付け、今後は「幸福の足袋」のコンセプトを関係方面で可能な限り引き取って育てて行ってもらえるよう、当基金は助成事業を含めて補助的、触媒的な役割にシフトして行きたい。

基金の今後については、財政的には引き続き非常に厳しいのが現状である。150周年事業で得られた若干の寄付、令和2年度に行ったクラウドファンディング及び外部からの事業補助金を、財産の運用益と合わせても、今後の基金の事業運営を長期に継続して行くに足る安定的な収入基盤には程遠い現実がある。今年度は本の出版という特例の支出(約250万円)があるが、それ以外の事業を平年並みに諸経費を削減しつつ行っても毎年約400万円は支出していく必要がある。そのまま行くと、あと約7年で基金の正味財産は1億6千万円まで減少し、福井県と福井市からの出捐金(各4千万円)が全体に占める割合が25%を超え、当基金は言わば行政監察下に置かれることとなる。上記のとおり、本職(理事長)は福井大学の常勤教員としての身分が本年度で終了することから、来年度以降は直営事業を大学との連携で学生の参加を得て行うことはできなくなり、またそれを前提に獲得してきた県と大学からの補助金も得られなくなる。助成事業については、当基金の本来の設立目的と独自性に鑑みて、日下部とグリフィス、特にグリフィスの顕彰に繋がるような国際交流を対象を絞り込んで行く必要があると考えている。またポストコロナの国際交流の在り方は、実交流とオンライン交流のハイブリッドになると見込まれる中で、当基金としてはオンライン交流の部分に絞り込んだ助成を行う方針を当面継続することとしたい。

これに対し、理事と監事全員から理事長の考えへの支持とともに今後の方向性についての有益な意見や助言が出された。

理事長より、これらを多とし、今後の活動と運用に適切に活かして行きたい旨述べた。

以上をもって、議事を終了し、閉会した。

以上、この議事録が正確であることを証明するため、出席した理事及び監事は、次のとおり記名押印する。

令和4年6月21日

公益財団法人日下部・グリフィス学術・文化交流基金

議長 代表理事 (理事長)	細 谷 龍 平	印
理 事	開 発 毅	印
理 事	鞍 谷 文 保	印
理 事	黒 原 繁 夫	印
理 事	西 東 一 彦	印
理 事	高 屋 雅 樹	印
理 事	花 島 信	印
理 事	松 下 晋 也	印
理 事	山 田 聡	印
監 事	諏 訪 光 宏	印
監 事	堂 裕 司	印